

伊丹公論

復刊
第13号
通巻32号

年 4 回発行
(次号は11月30日予定)

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-7-14
☎072・784・8170
編集
伊丹公論編集委員会

よみがえれ「猪名野笹原」

古代の名勝再現プロジェクト始動

百人一首の和歌にも詠まれ名高い「猪名野笹原」は、当時の伊丹市域などに広がっていた、ササを中心にした広大な草原。その雄大な風景を現代に再現しようという夢のプロジェクトが伊丹で始動している。市民らがモデル園の植栽などの管理作業を手がけ、来年3月の完成を目指している。

ありま山 あなの笹原 風吹けば
いでそよ人を 忘れやはする

うか」と手紙をよこしてきたのを受
け、返答した歌だ。

百人一首でおなじみのこの歌は、
紫式部の一人娘である大式三位が、
しばらく会いに来なくなった恋人が
間の悪さをこまかすように「君はも
う僕のことを忘れたんじゃないだろ

馬山。否の猪名野、だわ。猪名野の
笹原に風吹けばそよそよ、そよそよ
とやさしい葉ずれ。そうよ、そうよ、
そうなのよ。あたしがねえ、あなた
を忘れると思うの? (略)

この歌は「後拾遺和歌集」に収録
されているが、猪名野笹原を詠んだ
歌は「新古今和歌集」や「金槐和歌集」
など多くの歌集に見られる。猪名野
笹原は平安時代から歌枕として非常
に有名だったようだ。また、摂津の
名所とも位置付けられており、江戸
時代中期に発行された地誌「摂津名

所図会」でも

大きく紹介さ
れている。

まさに伊丹
の風景の代名
詞だった猪名
野笹原は、北



瑞ヶ池公園「猪名野笹原」
完成イメージ図



「摂津名所図会」に掲載された「猪名野笹原」の説明板
= 東リ株式会社正門付近 (東有岡5丁目)



モデル園を整備する人たち 瑞ヶ池公園で

日英大詩人の魅力探る

walking poets
9月17日から柿衛文庫で「歩く詩人 ワーズワスと芭蕉」展



青年時代のワーズワス
= 彌生書房「ワーズワ
ス詩集」(1966年発行)



許六筆芭蕉行脚像
(柿衛文庫蔵)

紀行文「おくの細道」や「古池や」などの
句で名高い日本を代表する俳人芭蕉と、イギ
リスを代表する詩人ウィリアム・ワーズワス
の直筆資料を集めた展覧会「歩く詩人 ワー
ズワスと芭蕉」が9月17日から柿衛文庫で開
催される。

芭蕉(1644〜1694)とワーズワス
(1770〜1850)は、生きた時代や地
域は異なるものの、「自然」旅をキーワー
ドに結びつけることができる偉大な作家だ。
ワーズワスの作品や住居を所蔵・管理す
るワーズワス・トラストは、イングランド
北部にあるワーズワス博物館で、平成26年

に管理されなくなるうちにネザサが
優占化して、ススキとネザサが混在
する草原に変化、それらの隙間を縫
うようにしてカワラナデシコやオミ
ナエシなどの控えめな草花が咲く―
そんな荒涼たる風景だったと推測さ
れる。

猪名野笹原を再現しようというプ
ロジェクトは、服部名誉教授が全国
的に有名な猪名野笹原を伊丹のシ
ンボルにできないか、と平成22年
(2010)、「伊丹市みどりの基本
計画」の審議会で提案したのをきつ
かけに始まった。

活動場所は瑞ヶ池公園(瑞ヶ丘5
丁目)内の猪名野笹原モデル園。市
みどり自然課が開催した「伊丹生

ものマイスター講座」の受講生と昨
年度の修了生有志計約30人が服部名
誉教授の指導のもと、ススキやネザ
サ、秋の七種などの苗を敷地の半分
に植栽した。来年3月に残りの半分
にも植栽され、この猪名野笹原越し
に有馬山(六甲山系)を望むこと
ができるようになる。

モデル園完成後も維持管理作業は
必要で、現在はみどり自然課職員と
「伊丹生きものマイスター講座」修了
生有志で水やり、雑草抜き取りなど
の日常管理や勉強会を行っている。

服部名誉教授は「瑞ヶ池公園のモ
デル園は来年3月でいったん完成す
るが、市内のいろんな場所でそれぞ
れの猪名野笹原をみんなに作ってほ

しい。そして、これをきっかけに子
どもたちが環境や古典文学に興味を
持って伊丹を誇りに思ってくれたら
うれしい」と話している。

古代人がこぞって歌に詠んだ感動
的な風景がよみがえる。来春の完
成が待たれる。

◇ ◇
市では「平成28年度伊丹生きもの
マイスター講座」を開講中。講義や
フィールドワークを通じて、本市の
希少な動植物や「猪名野笹原モデル
園」の取り組みなどを学ぶ。全15講
座中10講座を受講した人を「伊丹生
きものマイスター」修了生と認定。
詳細は市みどり自然課(☎072・780・
3521)へ。

(2014)の「WORDSWORTH
AND BASHO: WALKING
POETS」と題するワーズワスと
芭蕉のコラボレーション展を開催し
ている。同文庫にも出展依頼があつ
たが、展示期間や展示環境への不安
から、所蔵の芭蕉直筆作品ではなく
レプリカや写真パネルでの出展にと
どめた。

しかし、イギリス側から「我々は
直筆原稿にはその作品を生み出すと
きの作者の心の有り様が表れている
と考える、直筆の魅力や影響力を重視
しているの、やはり両者の直筆作
品を並べて展示したい。ワーズワス
の作品を持参するので、ぜひ柿衛文
庫で展覧会を開催してほしい」と熱
心な要請があり、会場調査のためス
タッフが同文庫を訪ねてきた。

そして平成27年2月、正式に展覧
会開催の依頼を受け、今秋の開催が
決定した。ワーズワス博物館の海外
出展は非常に珍しく、もちろん日本
では初めてのことだ。

イギリス側は、なぜ日本の芭蕉に
注目したのか。
芭蕉は「おくの細道」笈の小文」
など旅をしながら歩いて作品を構想

することであるが、また自然を
題材にしていた。ワーズワスもまた、
湖水地方を歩き回りながら自然の美
しさを作品に表した詩人であった。
さらにワーズワスの詩によく見られ
る、自分が自然の中に一体となつて
忘我の瞬間を感じるという描写は、
自己忘却を目的とする禅に傾倒して
いた芭蕉と重なる点とみて、そこに強
い繋がりがあると感じたようだ。

特別展では、2人の直筆の書簡や
原稿など12点とともに、2人の作品
や生き方などにインスピレーション
を受けて創作された日英の現代芸術
家による絵画、オブジェ、詩、楽曲
など多彩な作品も展示される。

ワーズワス・トラストのマイケル・
マクグレゴリ館長は、開催にあたっ
て「国際的にも貴重な手書き原稿を、
日英現代アーティストの作品ととも
に味わうことが可能となる今回の企
画の目的を熱心に支持し、大いに協
力して世界に広めようとしてくださ
ることに謝意を表します」とのメッ
セージを寄せている。

11月3日まで(月曜休館)。一般
700円、大・高校生450円、中・小学生
350円。

東日本や中国にも 「伊丹」の地名

郷土史
こぼれ話
13

伊丹村初見の文字 (川西市 多田神社文書)



「伊丹」の地名は、文献上いつごろから現れたのであろうか。
「伊丹市史」や「新・伊丹史話」によると、「伊丹」の初見は、多田神社文書にみえる嘉元元年(1303)の伊丹村である。
続いて嘉元2年に勝尾寺文書の伊丹村、そして延慶2年(1309)に伊丹四郎左衛門入道(六波羅裁判状)を名乗る武士が登場する。いずれも鎌倉時代だ。しかし音の「イタミ」で見ると、平安末期の治承4年(1180)の「伊多美」武者所(山槐記 公家の日記)が古い。この年は平清盛が政権を握り、伊丹にとっても昆陽野遷都の話が検討された注

目すべき年であった。最終的にはこの案は消え、その後、福原(神戸)遷都が断行された。そんな年に「伊多美」武者が記録されたのである。このほか京都・空也堂の叩鐘の銘文(942年・956年の二説有り)に、「伊丹」の鋳物師村(現北村の一部)住人が鋳造に関わった(擁書漫筆江戸後期随筆集)と出てくるが、空也(空也念仏の祖の記録との差異があり、これは偽書ではとの説が強い。また中世に「板見」兵庫などの武士名があるが、これも宛て字と思われる。以上の資料から類推すると「イタミ」は最初の「伊多美」が「伊丹」に変わったとも考えられるが、しか

「イタミ」の元々の意味は何からきたのか。「丹」を何故「タミ」と呼ぶのか。悩ましい研究が続く。
(郷土史研究家 森本啓一)

菊を愛でながら呈茶を 日本建築の粋を集めた鴻臚館で初の菊展示



緑の中にたたずむ鴻臚館



呈茶を楽しむ家族＝立礼席で

日本建築の粋を集めた市公館「鴻臚館」(緑ヶ丘公園内)で今年11月、初めて菊を展示する。最終

日には呈茶も行われ、日本情緒たっぷりのひとときが味わえそうだ。
鴻臚館は昭和59年(1984)、当時の矢埜一市長の下、日本建築の伝統・技術の保存、継承と合わせ、市民文化の高揚や国際交流にも寄与することを目的とし、市内在住の大工の棟梁や左官、建具師などの「伊丹の名工」によって建設された。
木造平屋建て176平方メートルの母屋造り数寄屋風建物。12畳の広間や8畳の次の間、「梅里庵」と名づけられた茶室、玄関右手には立礼席などが配され、水琴窟や美しい庭園も楽しめる。
毎週火・木・土・日曜(6月1日

8月31日は毎週土・日曜)の午前10時～正午、午後1時～3時に無料開放されているほか、春と秋には呈茶も行われている。

今秋は初めての企画として、11月3日～6日(4日休館)に10鉢程度の菊を展示。最終日の6日に呈茶を行うことにしている。見学無料だが、呈茶は1席500円。
問い合わせは市秘書課 ☎072・784・8009へ。

◇ ◇
「鴻臚館」とは、渡ってきた鳳が

郷土愛育む機会に

「伊丹ロマン事業」10年目
今年10月29日から「神津」テーマに

「文化財保護強調週間」(毎年11月1日～7日)に合わせた伊丹市の文

しこれは宛て字で、元々は「伊丹」と呼ばれていたとするのが有力である。おそらく平安末期から鎌倉初期にかけて、摂津の「伊丹」は次第に定着し、武士を中心に全国に広がっていったのであろう。

なお、摂津以外の武士団に伊丹氏の登場があり、これらの詳細も今後研究課題になろう。そして摂津伊丹以外にも全国には伊丹の地名が存在する。

茨城県のつくばみらい市に大字伊丹、福島県飯館村に伊丹沢がある。なぜそこにも伊丹の地名があるのだろうか。世界では中国吉林省(旧満州)に伊丹村がある。そして全国津々浦々の伊丹さん。これらの謎は解けていない。

翼を休める館という意味で、平安初期に京都や大宰府などに設けられた外国の賓客接待施設にちなんで名づけられた。

四畳半の茶室(梅里庵)は、壁土に混ぜた鉄粉によりできた錆が、渋い雰囲気を作り出している。床柱には三田産の天然赤松、床柱には宮崎県の孟宗竹林で発見された根付亀甲・煤竹、そして落掛には和歌山産の梅木を使用し「松竹梅」を施すなどこだわりが見られる。

玄関右手には、椅子式茶室の立礼

席(主客とも腰をかけて茶を点て、喫する茶式)があり、春秋に呈茶(有料)も催される。椅子式の応接や待合としても使用できる一角となっている。

庭園ではサクラ、マツ、カエデなどの樹木が四季の移ろいを楽しませてくれる。緑ヶ丘公園の自然とも調和し、落ち着いた雰囲気だ。

また、庭園には水琴窟がある。地中に埋めた水がめに滴が落ちるときに反響して聞こえる音色を楽しむことができる。

コマ漫画担当、林やよいさん制作の「いたみロマンちゃん」をイメージキャラクターに採用し、15団体からなる実行委員会により啓発事業をスタートさせた。

荒木村重など時機見てテーマ設定
ロマン事業は、毎年テーマを変えて実施している。平成26年はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送に合わせ、有岡城主・荒木村重にスポットライトを当てた。県指定文化財「昆陽寺観音堂」(寺本2)での歴史講演会や無形民俗文化財である「むぎわら音頭」と「摂津音頭」をオープンングセレモニーで披露するなど、伊丹の文化財を活かした事業を展開した。

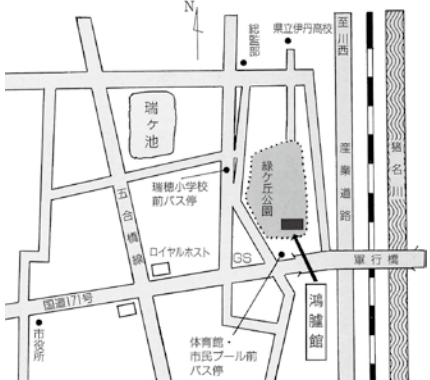
市教委社会教育課の中畔明日香課長(44)は「今までは各団体が独立した活動していたが、ロマン事業をきっかけに横のつながりができた。期間後も各団体が連携することで、相乗効果が生まれてきている。歴史・文化に触れ郷土への愛着を育む機会にしてみたい」と話している。

今年10月29日(土)午前



むぎわら音頭を披露する子どもたち

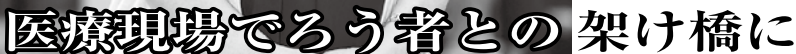
今年10月29日(土)午前



駐車場なし。市バス瑞穂小学校前または体育館・市民プール前下車徒歩数分。

10時に有岡城跡史跡公園(JR伊丹駅西側)でオープニングセレモニー。その後、11月26日(土)までの約1カ月間、市内各地の文化財などで多彩なイベントが行われる。
ことば蔵では、インターネット百科事典「ウィキペディア」を編集し、伊丹の歴史・文化を全世界に発信するワークショップ「ウィキペディアタウン in 伊丹」を11月27日(日)に開催する。参加費無料。希望者は当日直接ことば蔵1階交流フロアへ。

ことば蔵は、第4回「日本一短い自分史」のテーマを「一発逆転の大チャンス」と決めました。応募作品の中から大賞1作品、秀作3作品を選定、大賞作品については本紙復刊第15号に全文掲載します。
応募は、作品(800字以内)に住所、氏名、生年月日、電話番号を記載し、来年1月8日までに直接か郵送、ファックス、電子メールでことば蔵へ。



市立伊丹病院手話サークル
「たんぽぽ」会長

江木 洋子さん (62)

声が聞かれ

に關ることが起こり得る。何かいい方法はないか」と模索するなか、「私も手話を覚えたい」と周りの看護師から声が上がったことが「たんぽぽ」の設立につながった。

に展示する「ロビー・ボランティアハイジア」の設立に加わった。定年退職後は、地域にも活動の場を広げ、高齢者や地域住民が集う「健康カフェサロン」を立ち上げた。また、看護部長時代の経験を買われ、兵庫

力湯の入口に立つ店主の内藤博茂さん

り減っている。伊丹市内には昭和45年(1970)の最盛期には26軒あったが、今や3軒しかない(兵庫県公衆浴場業生活衛生同業組合加盟店)。

そのうちの1軒「刀湯」は、JR伊丹駅近くで営業している。鉄筋のビルの中にあり、地下に車が12台止められる駐車場と駐輪場(利用無料)を備えている。浴室の壁には金魚の水槽があり、おしゃれだ。

この銭湯は、昭和6年（1931）創業だが、昭和36年に経営難が深刻化、当時サラリーマンだった内藤博茂さん（86）が買い取った。当時は木造で今の半分しか敷地がなかったが、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたことから、建て替えを決意、今のビル形式の浴場となった。

湯の横にある三和合成化学株式会社
 経営は赤字だそうだ。それでも経営
 が成り立つカギが、同じビル内の銭
 湯の横にある三和合成化学株式社
 になった。
 一日の入浴者数は100人を下回り、
 やんだが、結局この銭湯の名物と
 わかり、10台までにしておけばと悔
 スプリングラーの設置義務はないと
 なかった。

内藤さんがこの銭湯を買い取った3年後に

金魚の水槽が生まれたいきさつが
おもしろい。消防法では地下駐車場
を作るときは、スプリンクラーの設
置の義務があり、水槽を作らなけれ

脱サラして立ち上げた。塩ビに入れる安定剤などを作っている。銭湯がつぶれないのは、この会社の収益のおかげというわけだ。

という。しかし後で10台未満なら、

内藤さんは3年前に社長職を息子に譲り、自身は毎日、銭湯で働いている。「銭湯を買って経営者になったことで、脱サラ・起業の自信がつ

いた。だから恩返しのもりで銭湯の経営を続けている。自分が生きている限り続けますよ」と話している。

この銭湯の特長は、金魚だけではない。湯の滅菌はオゾンでしており、湯がきれい。塩素を使っていないので、肌にも優しい。また露天風呂が2階にあり、葉草湯となっている。裏手に回るとボイラーが、所狭しと並んでいる。燃料は重油と電気との併用。また攪拌機かくはんきを備え、客が残した石けんと、てんぷら油の廃油を利用し、タオルなどを洗う石けんを作っている。

銭湯は、住民にとって裸の付き合いができる、大事なコミュニケーションの場。何とか生き残ってほしいものだ。

(細尾哲也)

伊丹市伊丹3丁目2-2

 072
•
782
•
0
4
8
1

入浴料 大人420円、小学生160円

乳幼児60円

訪探舗老
局薬岡吉

伊丹市宮ノ前1丁目4-17
☎072-772-3778

初代・吉岡孝夫さん（故人）が戦地から復員して戦前勤めていた大阪の薬品メーカーへ戻ると、すでに自分の席はなかった。薬剤師免許を持っていたことから一念発起、知人を頼って資金を集めたうえ、薬の町として知られる大阪・道修町（みちしゅまち）の葉間屋を紹介してもらい、昭和22年（1947）5月、国鉄（現JR）伊丹駅付近で薬局を開業した。

衛生状態が悪い当時のこと、回虫

しかし、当時の国鉄は列車が1時間に1本程度しか運行されず、次第に客が阪急へ流れて行ったため、中央へと移転した。

2代目・孝麿さん(72)は京都薬科大学を卒業、日本一漢方に詳しいといわれる医師・山本巖さんに師事し、以来50年以上、漢方薬を調剤・販売している。

平成11年(1999)には市街地再開発事業で整備された宮ノ前通り

さされる人が多く、駆虫薬のサントニンが大量に売れた。また、砂糖の供給が少なかつたため、サツカリンやズルチンなど現在では食品に使用されないような甘味料もよく売れた。

利晃さんは「漢方薬から健康保険に関わる調剤業務まで、幅広く対応できる薬局として人々の健康づくりに貢献していきたい」と話している。

(辻野文三)

(辻野文三)

ことば蔵は、伊丹大使で市内在住の芥川賞作家、宮本輝さんの小説「青が散る」の舞台、追手門学院大（大阪府茨木市）で、「青が散るツアー」を9月24日（土）に開催する。

宮本さんは今年創立50周年を迎える同大の第1期生として入学し、テニス部に所属していた。「青が散るツアー」ではまず、午後1時からことば蔵でビデオバトル（テーマ「輝」）を開催。宮本さんの作品などについて同大の学生などが書評合戦し、観衆の投票でチャンプ本を決定する。その後、同大学に電車とバスで移動し、小説に登場する舞台や大学付属図書館内「宮本輝ミュージアム」に展示されている芥川賞正賞の懷中時計をはじめとする宮本さんの愛用品などを見学する。

いずれも参加費無料（交通費別）。青が散るツアーは電話・来館で事前申し込みが必要（先着20人）。

伊丹市立図書館 ことば蔵

伊丹俳壇

「頭」 坪内稔典 選
(佛敎大学・京都敎育大学名誉敎授。柿衛文庫也雲軒塾頭)

最優秀賞

少年の頭の奥に積乱雲

衛藤 夏子 (大阪府枚方市)

積乱雲(入道雲)を見上げている少年、その少年の頭の中にも積乱雲が立っている光景。「頭の中で白い夏野となつてゐる」(高屋窓秋)という有名な句を連想させるが、窓秋のやや観念的な句よりも、この句の方に少年という存在の自然性が生き生きしている。

優秀賞

頭から飛び出すさまの心太
野球帽揃つて麦茶飲む木陰
夏草や鹿のま白き頭蓋骨
頭突の子裸の父は仁王立ち
最前列の頭上に降り来大花火

山口 正夫 (伊丹市)
松井 幸子 (山形県鶴岡市)
屋部きよみ (伊丹市)
前田 春蘭 (伊丹市)
渡邊 美保 (伊丹市)

伊丹歌壇

「夏野菜」 尾崎まゆみ 選
(玲瓏) 選者。神戸新聞文芸短歌選者。現代歌人協会会員

最優秀賞

意にそわぬ姿さらせば(まつすぐな胡瓜のごとく)褒められはする
(まつすぐな胡瓜)の存在感、目の前に迫ってくるその迫力、まるでまつすぐな胡瓜が「曲がつているのが普通です」と言っているようで、胡瓜に「がんばってるね」と声をかけたくなる。もちろん人間も不意でもがんばってます。

村田 馨 (東京都世田谷区)

優秀賞

妻の夏野菜スープはやさしくて営業職の苦味ほどける
藤田 晋一 (宝塚市)
瑞瑞しき息あるきゅうりを吾が挽ぎて命頂戴仕るなり
熊ノ郷紀子 (大阪府豊能町)
手首癒へさくさくさくさくと嬉しさにさくさくさくと胡瓜を刻む
松田 理 (尼崎市)
花として咲くだけならばピーマンも許してあげてもいいんだけれど
近藤きつね (群馬県高崎市)
夏野菜たとえばトマト好きになりカレーに入れて恋おわらせて
衛藤 夏子 (大阪府枚方市)



次回の兼題は、俳壇・歌壇ともに「虫」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、10月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円進呈。左のQRコードを利用すると、ケータイからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

イラストレーターの仕事を紹介

小学生の職業体験講座で林やよいさん



キャラクター作りを教える
林やよいさん



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいすまいる」を連載中。

本紙4コマ漫画「タンジロ先生」を担当するイラストレーター、林やよいさんによる職業体験講座「キツザ蔵「イラストレーター」が8月7日、ことば蔵で開かれた。

同講座は夏休みの思い出作りにも使ってもらおうと、3年前からパティシエやアナウンサーといった子どもたちに人気の職業をテーマに開催している。今回は小学生16人が参加。林さんがイラストレーターの仕事について紹介した後、みんなでことば蔵に隠れ住んでいる本のお化けをテーマにしたキャラクター作りを体験。本から脚が生えたカニのようなお化けやメガネをかけた辞書のお化けなどの個性豊かなキャラクターが誕生したイラスト。

講座に参加した市立花里小学校4年の服部裕気さんは「図鑑に出てきたカボチャの妖怪と本を合体させて作った。お化けを想像しながら描くのが楽しかった」と話していた。

まずは17人全員で「はいチーズ」とにっこり。最終日にもなると、疲れて早く帰りたいと思っているような顔が多い。

百貨店ですてきな黄色い靴を見つけたので衝動買い。2万円もした。ちゃんと合わせたのに、あれれ、家で履いてみると足が大きくなっていた。お金を友人に借りてまで買ったのに、大失敗の黄色い靴だった。

九龍島へ渡って波に触れ、石も拾った。その石は今でも引き出しにしまっている。

一部の友人はヘリコプターに乗り、電車でキッラキッラの夜の香港へ。私達は歌謡ショーに行き、伊丹では絶対にできない、無手勝流のダンス。みんなおもしろいオモシロイ、ダ

元おかめのきまぐれつらム

みんなで踊った最終日
～中国・佛山市への旅(下)～

私には俳句を楽しんでおり、このほど初の句集「父の手」(象の森出版)を出版しました。

帰りの飛行機は悠々と寝ておりました。

＊ ＊

それは17人全員で「はいチーズ」とにっこり。最終日にもなると、疲れて早く帰りたいと思っているような顔が多い。

百貨店ですてきな黄色い靴を見つけたので衝動買い。2万円もした。ちゃんと合わせたのに、あれれ、家で履いてみると足が大きくなっていた。お金を友人に借りてまで買ったのに、大失敗の黄色い靴だった。

九龍島へ渡って波に触れ、石も拾った。その石は今でも引き出しにしまっている。

一部の友人はヘリコプターに乗り、電車でキッラキッラの夜の香港へ。私達は歌謡ショーに行き、伊丹では絶対にできない、無手勝流のダンス。みんなおもしろいオモシロイ、ダ



(平きみえ)



▼大人の「月9」

テレビ番組で「月9」(月曜9時)と聞くと、若い人をターゲットにしたドラマを思い描く方が多いだろう。伊丹大使の有村架純さんも主役を張ったことがある。

しかし、我々大人(酒飲みのオッサンたち)にとっては、月9という、別の楽しみな時間なのである。それが、BSで放送されている「吉田類の酒場放浪記」だ。

▼夏酒の頒布会

いっきの酒屋さんがある。そこは、日本酒の揃えが良いし、近いから、ひいきにさせていただいている。店主は、酒への思い入れが強く、行くと長い時間、うんちくを語ってくださる(笑)。

その酒屋さんが4月から9月の半

年間、毎月おすすめの夏酒4合瓶を仕入れて販売する、という頒布会を行っている。4月から予約して6本買えば、最後に1本プレゼントがあるらしい。今年は拙者も申し込んだ。この公論が出るころには終盤だが、ホントに我々「フカ」にとっては、ありがたい企画である。感謝、感謝でもう一杯♪

追伸 今回のイラストは太鼓腹好きの拙者が立派なお腹の居酒屋店長とツーショットのものです。



(ときわ喜多)